

**競艇事業の礎を築いた
先人の顕彰が必要では？**

中瀬議員

(1) 市政功労について

戦後当初の壊滅的な市の財政を救うために市井の市民の発案で始まった競艇事業であるが、前例のない中で築きあげられた先人のご苦勞は相当のものである。その一人で90歳代半ばを越えても、お元氣な方がおられるが何らかの形で顕彰できないか？

軍都であった大村だからこそ世界平和を訴えるための平和記念会館が必要であると考えており、戦争の悲惨な歴史をきちんと捉え、問題解決に武力を使わない平和な世界を目指す発信ができる施設の設立を望む。まずは証言記録や資料の収集を急がなければならぬ。それ次第で国を動かし、国内はもとより外国からも見学者が訪れるような施設になりうる。市として何らかの形で関わりと支援ができないか。

市長

(1) 競艇事業はこれまで市の一般会計へ巨額の繰り入れを行い、今日の大村の都市整備に大変な貢献をしており、感謝をしている。開設当時は試行錯誤を繰り返すなど、その道のりは並大抵のことではなかったものと推察される。それだけに、開設にこぎ着けた多くの先輩方には、特に大きな功績があると認識している。貢献度の極めて高かったかつての競艇事業部長は本当に表彰に値する

副市長

(2) 悲惨な戦争の記憶を、決して風化させてはならないし、戦争の悲

慘さと、平和の尊さというの、後世まで末永く伝えていかねければならないと思っている。これまで市としては平成7年に非核平和都市の宣言とモニユメントの建設、日本非核宣言自治体協議会への加入、平和市長会議への加入、図書館での戦争関連のパネル展、学校での平和教育などを行ってきた。こういった中で戦争の悲惨さというものを風化させないために、市としてどういうことができるのか平和記念館を含め研究していきたい。

(その他の質問事項)

- ・市民の目線での市民窓口を
- ・最後の地元救世主は地場産業
- ・地産地消と成り立つ農業育成について
- ・高齢者に目を向けた市街地開発について
- ・水資源の確保と雨水利用について



人材確保と育成は大村力向上の根幹です！

村崎議員

(1) 職員の採用と育成について

① 昨年6月議会会で、職員の新規採用試験の見直し、県内大学へのリクルーティング活動などの提案を行ったが、実施状況はどうなのか？

② 職員の年齢ピラミッドを考えると、今後も継続的に一定数の新卒採用を行うべきだと考えるがどうか？

③ 新入職員の育成が鍵になる。入庁年度ごとに育成計画を作成し、きめ細やかな育成を行うべきだと思いが、育成計画は作っているのか？

④ 新入職員を地域で育てる視点が必要だ。配属さ

せるまでの間に市内医療、教育、福祉、商店街などの現場で研修させることはできないか。また、研修後に希望配属先を聞くような逆ドラフト制度を研究してはどうか。

(2) 久原池田線の変則交差点(上諏訪地区)の安全対策について

3月30日に久原池田線が開通する。上諏訪町の変則交差点は欠陥商品であるという指摘もあるが、抜本的な改良にはどのくらいの費用を要するのか。開通後に現実的な安全対策を講じる予定はあるのか。また、安全対策の内容について地元関係者と協議を行っていただけなのか。

総務部長

(1) ①「大村市の未来をデザインする元氣な人を募集します」をコンセプトに募集し、試験内容では、集団討論などを取り入れた。また、次年度に向けては、長崎大学などで公務員採用試験ガイダンスに参加して説明を行った。

総務部長

(1) ② 今後、毎年平均15名程度の定年退職が見込まれるので一定の採用は必要と考えている。

副市長

(1) ③ できるだけ様々な研修を受けてもらいたいということから年度ごとの計画はつくっていない。今後、検討したい。

市長

(1) ④ 現場主義でなければ生きた行政はできない。そういった意味で、様々な現場での体験をしてもらうことは非常にいいアイデアである。早速、研究して1年以内に結論を出したい。

都市整備部長

(2) 抜本的な改良となると用地などの補償が膨らみ、事業費としては3億5千万円程度かかる。一時的な安全対策としては、交差点の延長70mをカラー舗装にし、ドライバーに注意を喚起するよう考えている。地元関係者との協議については、交通量が平準化する5月頃に交通量調査を行い、その後、警察との協議を経て、行いたいと考えている。

(その他の質問事項)

- ・市立図書館の整備について
- ・バス路線の見直しについて

